平成１９年度版

豊田市森づくり白書

豊 田 市

この報告書は、豊田市の森林の状況、豊田市が行った森づくり施策等について、平成19年度の実績をまとめたもので、豊田市森づくり条例第19条の規定に基づき、豊田市が毎年、作成して公表するものです。

豊田市森づくり条例

（年次報告）

第19条　市長は、森林の状況、森づくり基本計画に基づき実施された施策の状況等について、年次報告書を作成し、これを公表するものとする。

＝表紙の写真＝

豊田市稲武町井山地内の稲橋緑会所有の山林において、高性能林業機械で行った「列状間伐」後の様子。

目　　　　　次

平成19年度に実施した施策の概要･･1
１．予算の執行状況･･1
２．主な施策の実施状況･･1
（１）間伐推進プロジェクト･･1
（２）団地化推進プロジェクト･･2
（３）林業労働力確保プロジェクト･･3
（４）林業用路網整備プロジェクト･･3
（５）素材生産の効率化・低コスト化プロジェクト････････････････････････････････3
（６）木材利用促進プロジェクト･･4
３．共働による森づくりの推進と「とよた森林学校」の開催･･････････････････････････4
４．豊田市森づくり基金の創設･･5
５．稲武地区のダウンバースト森林被害跡地調査の実施････････････････････････････5

第１章　豊田市の森づくり･･6
Ⅰ　豊田市の広域合併と森林課の設置･･6
Ⅱ　森づくり条例・構想・基本計画制定までの経緯････････････････････････････････6
１．森づくり条例･･6
２．豊田市100年の森づくり構想･･･7
３．豊田市森づくり基本計画･･7
Ⅲ　豊田市が目指す森林の姿･･7

第２章　豊田市の森林を取り巻く環境･･8
Ⅰ　豊田市の森林の現状･･8
１．総括･･8
２．人工林の現状･･8
３．天然林の現状･･9
Ⅱ　木材価格の変化と木材生産量･･9
１．豊田市内の木材生産量･･9
２．豊田森林組合木材センターの木材取扱量と平均単価････････････････････････････10
３．スギ・ヒノキの取扱量と平均単価･･10
Ⅲ　森づくりの担い手「豊田森林組合」の現状････････････････････････････････････10
１．組織･･10
２．事業活動･･11

第３章　新しい森林施策の方向･･12
Ⅰ　高性能林業機械の導入･･12
Ⅱ　巻枯らし間伐の推進･･12

Ⅲ　企業やボランティアとの共働による森づくり……13
１.企業との共働による森づくり……13
２．ボランティアとの共働による森づくり……13
Ⅳ　あいち森と緑づくり事業の新設……13

第４章　平成19年度に実施した森林施策……14
Ⅰ　平成19年度　予算執行実績……14
１．歳入決算額……14
２.歳出決算額……14
Ⅱ　平成19年度事業実績と進捗状況……15
１．「とよた森づくり委員会」の開催と
「豊田市森づくり基本計画」の策定……15
２．具体的施策①　－重点プロジェクト－……16
（１）間伐推進プロジェクト……16
（２）団地化促進プロジェクト……18
（３）林業労働力確保プロジェクト……20
（４）林業用路網整備プロジェクト……21
（５）素材生産の効率化・低コスト化プロジェクト……25
（６）木材利用促進プロジェクト……25
３．具体的施策②　－その他の主要な施策－……26
（１）森林の現況把握に関する施策……26
（２）木材以外の森林資源の活用に関する施策……27
（３）とよた森林学校に関する施策……28
（４）山村地域の活性化と文化の伝承に関する施策……30
（５）ＮＰＯ・森林ボランティア等との共働による森づくりに関する施策……30
（６）事業評価に関する施策……32
４．管理業務……33
（1）伐採届の受理……33
（2）豊田市森林会館の管理……33
（3）市有林の管理……34
（4）林道維持管理……35
５．講演、視察受入等の森づくり推進活動……36
６．産業部森林課の組織と主な業務……38

豊田市森づくり条例

利用される方へ
１．H17、H18、H19 は、それぞれ平成 17 年度、平成 18 年度、平成 19 年度を表します。
２．時点は平成 20 年３月 31 日現在及び各年度末の数値を記載しました。
３．表中符号の用法は次の通りです。
「０」：四捨五入後単位未満、「－」：該当数字なし、「…」：不明
４．事業量の数値は、四捨五入していますので、内訳と計は必ずしも一致しないことがあります。

平成１９年度に実施した施策の概要

平成 19 年度は、同年３月に策定した「豊田市森づくり条例（以下「条例」という。)」及び「豊田市 100 年の森づくり構想（以下「構想」という。)」に続いて、同年 10 月には、今後 10 年間に行う施策を定めた「豊田市森づくり基本計画」(以下「基本計画」という。）を策定しました。

基本計画の期間は、平成 20 年度から 10 年間であることから、平成 19 年度に実施した各種施策は正式には、基本計画の対象となりませんが、概ねそれに即した内容となっております。

１．予算の執行状況

平成 19 年度の事業実施状況は、事業総予算 2,787 百万円（前年度比 348%）に対して、事業実績 2,740 百万円（前年度比 350%）であり、執行率は約 98%（前年度も 98%）となりました。概ね、計画通りに事業を実施することができました。

前年度に比較して予算額が大幅に増加した原因は、「豊田市森づくり基金」（Ｐ５参照）を補正予算で 20 億円の増額計上したことによるものです。

〈歳出予算額と決算額の状況〉　（単位：千円・%）

年　度	予　算　額			決算額	未執行額	執行率
	当初予算	補正予算	最終予算			
H18	836,977	△34,970	802,007	783,311	18,696	97.7%
H19	827,237	1,959,735	2,786,972	2,740,474	46,498	98.3%
前年度比	98.8%	－	347.5%	349.9%	－	－

資料：財政課

２．主な施策の実施状況

豊田市は、構想の中で施策の最重点課題を「20 年間で市内から間伐手遅れ人工林を一掃し、森林が本来持つさまざまな機能を高度に発揮できるような状態にする」こととし、そのために、平成 20 年度から 10 年間で 25,000ha の間伐をすることを定めました。平成 19 年度は、基本計画に定めた主要施策の前段階と位置付け、平成 20 年度からの本格的実施のための基礎資料を得ることを目的として、各事業を実施しました。

そのうち、基本計画で定めた６つの重点プロジェクトについて、平成 19 年度に実施した事業の概要は次のとおりです。

〈４割間伐の施行地の状況〉

（１）間伐推進プロジェクト

平成 19 年度は、従来からある各種の間伐補助事業等を総合的に組合わせて実施した結果、次のとおり、1,280ha の間伐を実施することができました。

これは、前年度に比較すると５%の減少となりましたが、過去５年間の平均値を約 60ha 上回っています。間伐数量が若干ながら減少した理由は、間伐を集中的に実施する時期の２月初旬に大雪が降り、足助地区・稲武地区の標高が高い地域において積雪及び凍結のため、年度内の間伐が不可能となった事業地があったことによるものです。また、平成 19 年度に市有林における間伐実績が計上されていないのは、同年度に限り県が実施する造林推進事業の補助対象とな

ったことによるものです。

〈間伐実施面積〉　（単位：ha）

年度	間伐実施面積	豊田市事業					県事業	自　力
		計	造林事業	水源基金	水道水源	市有林		
H17	1,270	626	418	109	65	34	644	－
H18	1,351	797	449	215	111	20	544	10
H19	1,280	731	438	216	76	－	541	8

(注)ha 未満は四捨五入。県事業＝農林公社・治山事業・県有林事業を含む。造林事業＝国の補助事業に上乗せして実施。水源基金は矢作川水源林対策事業。水道水源は水道水源保全事業と環境林整備事業を含む。市有林は豊田市有林での間伐事業で、平成 19 年度の実績(35ha)は造林事業に含まれる。　資料：森林課

（２）団地化推進プロジェクト

①地域説明会の開催

平成 19 年度は、条例及び構想の内容及び森づくり団地の概要を、中山間地域の森林所有者に理解していただくため、自治区及び地域会議並びに地元からの要請等により、合計 79 回の説明会を開催し、延べ 1,311 名の参加者がありました。説明会では、職員自らが作成したパワーポイント及び資料を毎回利用して、できるだけわかりやすく説明するとともに、地元での説明会には、豊田森林組合の職員も出席して説明を行いました。

〈旭地区における説明会の様子〉

②地域森づくり会議の設置

地域説明会の開催後、地元より要請があった集落については、さらに地域森づくり会議を設置するための説明会を何度も開催し、地元代表者・豊田市・豊田森林組合が一体となって協議を重ねました。その結果、平成 19 年度中に、次の 15 地域において地域森づくり会議が設置され、団地化して間伐を効果的・集中的に実施するという目標に向けての道筋を作ることができました。今後は、地域森づくり会議を設置した地域において、間伐団地を設定していくことが必要となります。

〈地域森づくり会議の設置実績〉

地　区　名	会議数	町　数
足　　助	1	3(一部含む)
下　　山	9	9(一部含む)
旭	4	6
稲　　武	1	1
合　計	15	19(一部含む)

資料：森林課

③森林施業団地化モデル事業の実施

足助地区の川面地域を始め４地域において、地形・地域性・森林特性の調査や森林所有者の意向の変化等、間伐推進における課題を明らかにするとともに、事業展開に向けての推進手法を検討しました。

（３）林業労働力確保プロジェクト

今後 20 年間に渡り強力に間伐を推進していくためには､現在の豊田森林組合が持つ林業労働力だけでは、大幅に不足することが見込まれます。今後とも、従来からある林業労働力育成システムを活用して林業労働者を育成していきますが、平成 19 年度には合計 26 名を育成しました。

今後は、とよた森林学校の修了者を緑の雇用担い手対策事業と緑の人材活用森林整備事業に優先的に採用するとともに、さらに前者の高度化研修にも進む人材育成ルートを確立する必要があります。

〈林業労働力の育成実績〉　（単位：人）

行　事　名	実施主体	H17	H18	H19
緑の雇用担い手対策事業	豊田森林組合	4	6	7
緑の人材活用森林整備事業	豊田森林組合	13	14	9
とよた森林学校(セミプロ養成講座)	豊　田　市	－	10	10

資料：森林課・豊田森林組合

（４）林業用路網整備プロジェクト

木材生産を主な目的とする森林（以下「林業経営林」という。）においては、効率的な作業を実施するために、林道・作業道・搬出路を組み合わせた重点的な林業用路網の整備が必要です。平成 19 年度は次のとおり整備しました。

〈林業用路網の整備実績〉　（単位：m）

区　分		H17	H18	H19
林道	開　設	3,443	3,920	3,000
	改　良	757	870	708
	舗　装	5,931	5,140	5,666
作業道		3,192	3,230	2,583

資料：森林課

〈林道羽布下り沢線の改良状況〉

戦後に拡大造林された人工林が成熟していくに従い、今後、林業用路網の整備がますます重要になりますが、同時に災害に強い道作りの確立も必要です。

（５）素材生産の効率化・低コスト化プロジェクト

木材価格の低迷や木材生産経費の高騰により、木材生産の採算性が得られず、手入れがされないままの人工林が多くあります。そこで林業生産性の向上を目指して、従来の伐採・搬出方法ではなく、高性能林業機械を活用した作業システムを採用し、経費の低コスト化に取り組みました。

なお、事業地の集団化をするためのノウハウ、高性能林業機械オペレーターの技術向上、サテライト土場の活用、有利な販売方法の確立など多くの問題点がまだあり、今後この課題に積極的に取り組む必要があります。

〈高性能林業機械を利用した間伐〉

（６）木材利用促進プロジェクト

木材利用を促進することは、特に道路沿いの利用間伐を推進することに大きく寄与します。まずは、豊田市が公共施設等にできるだけ豊田市産木材を利用することで、他方面に波及することが期待されます。

〈豊田市の公共事業における木材の使用量〉

区　　分	H17	H18	H19
市の公共事業における木材使用量	417.08 ㎥	448.02 ㎥	488.76 ㎥
木材を利用した主な施設	帰農者滞在施設 巴ケ丘小学校	市営住宅 公衆トイレ	浄水駅地下通路 保見交流館

資料：技術管理課・営繕課

３．共働による森づくりの推進と「とよた森林学校」の開催

豊田市が目指す森づくりを実現するためには、行政や森林組合だけでなく、多くの一般市民の方々の共通認識を得たうえで、共働していくことが重要です。そのため、平成 19 年度は次の施策を実施しました。

（１）とよた森林学校の開催

平成 18 年度に開校した、とよた森林学校の２年目として、15 講座延べ 75 日の講座を開催するとともに、事務局が企画する自主講座を５回、学校等からの依頼に基づいて実施する出前講座を 35 回開催しました。ほとんどの講座で定員を上回る応募があり、森林・林業に係る人材育成と一般市民における理解者の増加という点で、大きな成果を上げました。

〈講座内容と受講者数〉

講 座 区 分		講座数	開催日数	募集人員	応募総数	受講者数
	人材育成コース	６講座	51 日	80 人	116 人	78 人
	森の応援団コース	９講座	24 日	200 人	261 人	218 人
小　　計		15 講座	75 日	280 人	377 人	296 人
事務局自主講座		５講座	5 日	95 人	127 人	93 人
出前講座		－	35 日	－	－	1,054 人

資料：森林課

（２）森林活動の森・大洞

基本計画の中で提示した市民活動の森を具体化するフィールドを選定するために、委託調査を実施し、この中で「市民の森検討会」を３回、公募による車座会議１回を開催しました。そこで検討した結果から、市民活動の場として小原地区にある大洞市有林を選定するとともに、同所の植生調査を実施しました。

平成 20 年度に活動内容・方法を決定したうえで、活動を希望する市民団体・ボランティアグループを公募していきます。

〈大洞市有林における車座会議の視察〉

（３）森づくり月間及び森づくりの日に関するイベントの開催

森づくりの普及啓発を目的として、条例第 16 条に定めた森づくりの日（10 月 26 日）及び森づくり月間（10 月）に、次のイベントを実施しました。

〈イベントの開催状況〉

区　　分	内　　容
森づくり月間	森づくりシンポジウム、キックオフイベントほか行事を 28 回開催
森づくりの日	第１回森づくりフェスティバルとして 木工教室・森林見学ツアー等を旭高原元気村等で開催

資料：森林課

〈森づくりシンポジウムの様子〉

〈森づくりフェスティバルの様子〉

４．豊田市森づくり基金の創設

豊田市は、平成 20 年度からおおむね 10 年間の森林整備に充てる費用を担保する目的で「豊田市森づくり基金」を設置しました。金額は 20 億円で、森林整備を進めるうえで欠かせない林道整備費用に充てることを想定されています。

林道整備は、10 年間で 58km を計画しており、市は約 57 億円の費用を見込んでいますが、基金はそのうち市負担分約 26 億円の一部に充てることにしています。このことにより、景気変動に左右されず、森林整備を計画的に進めることができます。

〈平成 20～29 年度に林業用路網整備に必要な経費〉　（単位：百万円）

事　業　内　容	10 年間事業費	計	市　の　支　出			
			一般財源	国県補助	水源基金	その他
林業用路網整備（開設）	8,640	6,224	3,038	2,667	150	369
うち市施工の林道（開設）	5,650	5,650	2,614	2,667	－	369

（注）8,640 百万円と 6,224 百万円の差額 2,416 百万円は、市会計以外（国県補助金等）の支出　　資料：森林課

５．稲武地区のダウンバースト森林被害跡地調査の実施

平成 19 年７月 12 日に発生した珍しい気象現象のダウンバーストにより、稲武地区の黒田町～桑原町～夏焼町にかけて、スギやヒノキなどが倒伏したり折損する被害が発生しました。市は、同年 10 月から 12 月にかけて、代表的な被害地６ヶ所の現況調査を行いました。その結果被害地は、樹種・林齢・傾斜・間伐状況に関係なく発生しており、全く偶発的な気象災害であることが確認できました。

〈ダウンバースト森林被害〉

中には、90 年生のスギが一瞬にして折れた被害地もあり、その威力に驚かされました。

第１章　豊田市の森づくり

Ⅰ　豊田市の広域合併と森林課の設置

豊田市は、平成 17 年４月１日に藤岡町・小原村・足助町・下山村・旭町・稲武町と市町村合併を行いました。合併により市域は約 92,000ha（県内１位）となり矢作川流域の約半分を占めることになりました。このうち森林の占める面積は、市域の約 68%にあたる約 63,000ha となりました。しかし、それらの森林の管理状態はあまり良好ではなく、外国産材の輸入、山村地域の過疎化などにより適正な管理がされていない人工林が多くを占めています。このまま放置し続けると、木材を生産する機能だけでなく、災害防止や水源かん養などの公益的機能が損なわれ、災害の発生する可能性が高まります。このため、新「豊田市」にとって、森林の保全・活用は、都市と農山村とが共生するまちづくりを進めていくために避けて通れない課題となりました。そこで市は、合併を機に新たに「森林課」を創設し、森林地域の地理的中心地にある旧足助町役場の敷地内に事務所を設けました。合併のテーマである「都市と農山村の共生」の実現に向けて、矢作川流域の森林環境の保全・活用は元より、わが国が抱える地域間格差の是正並びに国土の保全に対する先導的モデルとなりうるように事業を推進していきます。

〈豊田市の位置〉

〈豊田市の面積と人口〉

地区名	全域	豊田	藤岡	小原	足助	下山	旭	稲武
面　積(ha)	91,847	29,011	6,558	7,454	19,327	11,418	8,216	9,863
人　口(人)	416,243	370,979	19,589	4,391	9,366	5,487	3,422	3,009

資料：庶務課

Ⅱ　森づくり条例・構想・基本計画制定までの経緯

１．森づくり条例

平成 12 年９月の東海豪雨により、矢作ダムで緊急の大放水が行われた結果、市街地の矢作川堤防を水が越える寸前までに至り、もう少しで豊田市の中心市街地は水没するところでした。矢作川上流の森林では、至るところで“沢抜け”が発生し、矢作ダムは大量の流木で埋め尽くされました。その後平成 17 年に市町村合併した結果、東海豪雨の教訓から、森林の状況を調査する必要が生じました。森林ボランティアの皆さんなどが行った「森の健康診断」によると、人工林のうち６～８割が過密であるという結果になり、このことから、人工林整備の必要性を痛感しました。そこで矢作川上・中流の都市として、森林保全の役割を果たすため、「豊田市森づくり条例」を制定しました。この条例では、『豊かな環境・資源・文化をはぐくむ森林の保全・創造を推進し、豊かな森を次世代に承継する』ことを目的に、①公益的機能の発揮、②木材の循環利用、③地域づくりと一体となった森づくり、④人材育成と共働による森づくりの４つの基本理念に基づく森づくりを推進することにしました。

２．豊田市 100 年の森づくり構想

この構想は、条例で定めた基本理念を実現するため、100 年先を見据えた森づくりの方向性とこの先 20 年間の基本的施策を示したものです。

なお、条例と構想の作成にあたっては、「とよた森づくり委員会」を設置し、学識経験者や公募委員などによる 13 名の委員に尽力していただきました。さらにパブリックコメントにより一般からも意見を募集し、その作成に反映しました。

３．豊田市森づくり基本計画

構想を実現するため、今後 10 年間に行う具体的な目標と施策を「豊田市森づくり基本計画」としてまとめました。この計画では、10 年間で 25,000ha の間伐という高い目標を掲げ、これを推進することで健全な森づくりを進めます。

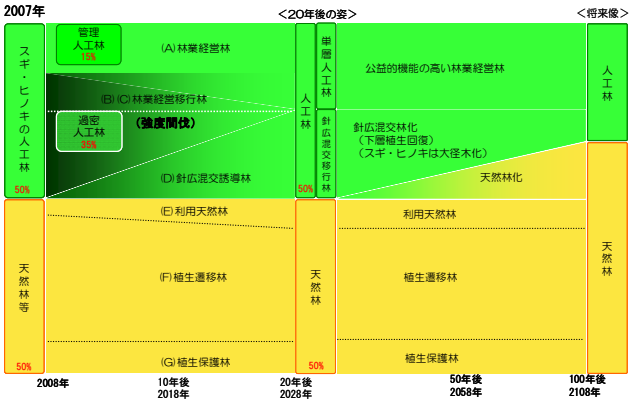
Ⅲ　豊田市が目指す森林の姿

豊田市は、過去の拡大造林を主とした施策の反省や天然林に対する社会的価値観の上昇などを踏まえ、100 年後の森林の姿を次のように想定しました。

林業として成り立つところは公益的機能が十分に発揮できる人工林づくりを進めるとともに、尾根筋や急傾斜地など、必ずしも林業に適さない人工林は針広混交林・天然林化を進めます。また天然林は、植生遷移を基本に保全・活用します。

公益的機能の高い人工林は災害に強く、生態系も豊かになります。そのため間伐手遅れ状態のスギ・ヒノキの人工林の間伐を進めて、天然植生を回復させることで、公益的機能の高い森林の育成を目指します。

〈近未来の豊田市の森林〉



〈構想における森林の整備目標〉

〈針広混交林のモデル・香嵐渓〉

第２章　豊田市の森林を取り巻く環境

Ⅰ　豊田市の森林の現状

１．総括

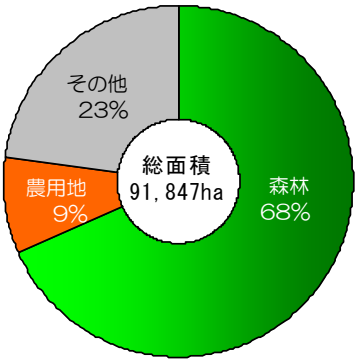
豊田市内の森林は、市域の約 68%にあたる 62,722ha あり、そのうち 1,365ha を国有林、61,356ha を民有林が占めています。また、民有林のうち約 57%にあたる 35,148ha が人工林で、残りが広葉樹を中心とした天然林となっています。さらに人工林のうち、スギとヒノキの面積は 30,483ha で、全森林面積の約 50%、人工林面積の約 87%に上ります。

これらの人工林率は、地域的にみると旧東加茂郡で約 71%と高いのに比べて、旧西加茂郡では約 44%、旧豊田市では約 37%と低い値になっています。一方、天然林は市街地周辺や丘陵地帯に多く見られ、矢作川の上流域に向かうほど、その割合は低くなっていきます。

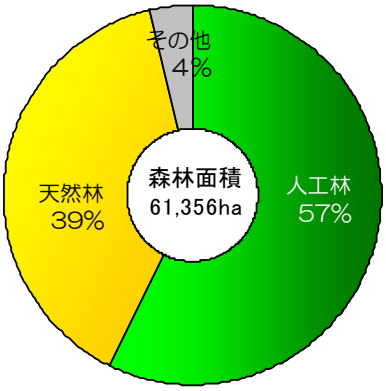
なお、人工林の約 19%を占めるマツ類のほとんどは、治山工事で植栽されたクロマツと尾根に植栽されたアカマツで、長野県の矢作川流域で数多く植えられているカラマツはごくわずかです。アカマツ・クロマツの大部分は松くい虫の被害や植生遷移などにより減少し、実際には天然林に変化しているものと推測されます。

また、竹林はのり粗朶(そだ)原材料や竹の子栽培などの利用が激減した結果、地下茎による旺盛な繁殖力で分布を拡大しており、川沿いの肥沃地を中心として人工林や天然林に侵入してきています。

＜豊田市の森林率＞

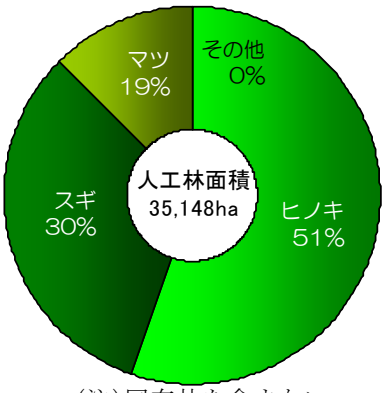


＜豊田市の人工林率＞



(注)国有林を含まない。

＜人工林の樹種別割合＞



(注)国有林を含まない。

資料：県森林整備課

２．人工林の現状

人工林は、木材の収穫を目的とした田畑のようなもので、下刈・枝打・除伐・間伐など、収穫までの人為的管理が必要です。しかし、スギ・ヒノキの人工林約 30,500ha のうち、３分の２に当たる約 20,000ha が過密状態にある間伐手遅れ林であると推測されています。

間伐の遅れた人工林の多くは、林内の植生が極端に乏しく、地表がむき出しになっていて、水源のかん養や災害防止といった機能が低下しています。人工林を適正に管理し、森林の持つ公益的機能を回復することが求められています。

〈間伐遅れの人工林の惨状〉

＜豊田市の地域毎の森林率と人工林率＞

	区域面積A (ha)	森林面積B (ha)	森林率 C=B/A×100	森林のうち人工林D (ha)	人工林率 E=D/B×100
豊 田 市	91,847	62,722	68%	36,513	58%
うち民有林	－	61,356	67%	35,148	57%
豊田地区	29,011	9,938	34%	2,761	28%
藤岡地区	6,558	4,711	72%	1,673	36%
小原地区	7,454	5,506	74%	2,419	44%
足助地区	19,327	16,253	84%	9,890	61%
下山地区	11,418	9,694	85%	7,102	73%
旭　地区	8,216	6,690	81%	4,649	69%
稲武地区	9,863	8,564	87%	6,654	78%

(注)民有林は、森林のうち国有林を除いたものを言う。　　資料：県森林整備課

３．天然林の現状

天然林のうち里山と呼ばれる地域は、かつては薪や炭の原料、水田の肥料源を得る場所として人々が大切に手入れをしつつ活用してきた結果、コナラ・アベマキ・ヤマザクラなどを主とした落葉広葉樹林が成立してきました。しかし、燃料革命や生活様式の変化に伴い利用価値が少なくなり、今ではその多くが放置されています。近年になって、都市部に近い里山林を中心として、都市住民の潤いや癒しの空間、楽しみの場として見直されています。今後、一般市民が利用することができる天然林については、その利用方法と管理育成方法を新たに確立していくことが必要になっています。なお、人の手が入らなくなった天然林は、植生遷移によって、徐々に地域特有の極相林に変化していくものと思われます。

〈植生遷移が進む天然林〉

Ⅱ　木材価格の変化と木材生産量

市内の木材生産は、その多くを豊田森林組合が担っており、間伐の推進とともに、木材生産量の増加が見込まれます。また、木材価格については、外国産木材の輸入量の減少がどのような影響を与えるかを見守る必要があります。

１．豊田市内の木材生産量

市内の人工林の蓄積は成熟期に向かいつつありますが、採算性の悪化等により、木材生産量は低迷しています。しかし、今後は高性能林業機械の効率的運用等により、生産量の増加が期待されます。

〈豊田市内木材生産量〉　　（単位：㎥）

年度	市内木材生産量	うち豊田森林組合の生産量	うち利用間伐	うち高性能林業機械使用
H17	23,700	13,811	11,049	－
H18	24,300	14,689	8,000	3,320
H19	23,218	16,495	12,899	6,826

資料：「森林組合の概要」及び豊田森林組合

２．豊田森林組合木材センターの木材取扱量と平均単価

市内にある原木市場は豊田森林組合木材センター(以下「木材センター」という。)だけであり、市内産の木材の大半は、この市場を経由して流通しています。木材センターの木材取扱量は増加傾向にありますが、その平均単価は、ほぼ横ばい又は下降傾向にあります。

項　　目	H17	H18	H19
木材取扱量(㎥)	8,086	11,154	13,037
平均単価(円／㎥)	15,886	16,458	13,713

資料：木材センター

３．スギ・ヒノキの取扱量と平均単価

木材センターでは、マツや広葉樹も取り扱いますが、主にスギ・ヒノキを取り扱っています。それぞれの取扱量と平均単価は次のとおりです。取扱量については、スギ・ヒノキとも増加傾向にありますが、単価については、ここ数年間はスギが１万円前後、ヒノキが２万円前後で推移しています。

項　　目		H17	H18	H19
ス　ギ	木材取扱量(㎥)	3,268	4,228	6,437
	平均単価（円/㎥）	10,030	10,300	9,192
ヒノキ	木材取扱量(㎥)	4,254	6,588	6,220
	平均単価（円/㎥）	19,981	20,590	19,087

資料：木材センター

Ⅲ　森づくりの担い手「豊田森林組合」の現状

豊田市内の森林組合は、市町村と同じ時期（平成 17 年４月１日)、同じ範囲で対等合併し、全国的にみても有数の規模と事業量を持つ豊田森林組合となりました。しかしながら、組織体制や労務体制等に十分でない部分があり、その育成強化が今後の森林整備を推進していくうえで大きな課題となります。

１．組　織（平成 19 年度現在値）

（１）組合員の状況

（単位：人）

資格区分	18 年度末	19 年度加入	19 年度脱退	19 年度末
正組合員	8,618	6	4	8,620
准組合員	6	0	0	6
合　　計	8,624	6	4	8,626

資料：豊田森林組合

（２）常勤の役職員数

（単位：人）

年　　度	H17	H18	H19
常勤役員数	2	2	2
常勤職員数	52	52	51

資料：豊田森林組合

（３）作業班員数

間伐等の森林整備の作業を行っているのは作業班員で、１人～７人程が班編成をして活動しています。豊田森林組合全体で 56 班あり、主に支所単位で活動しています。

〈豊田森林組合作業班員の年齢別構成表〉　（単位：人）

年度	30 才未満	30～39 才	40～59 才	60 歳以上	合　計
H17	11	10	34	79	134
H18	11	15	34	73	133
H19	14	18	49	52	133

資料：豊田森林組合

（４）中核組合の認定

平成 19 年８月１日に、愛知県知事より県下初となる「中核組合」の認定を受けました。このことにより、国・県の森林組合指導方針に沿った各種の事業支援が受けやすくなります。

（５）下山地区開発事務所の設置

下山地区で開発が進められている「豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業」において、県企業庁からの要請に基づき、平成 19 年 10 月１日、「豊田森林組合下山地区開発事務所」を豊田市役所下山支所内に開設し、物件調査を受託しました。

２．事業活動

（１）指導部門

基本計画に記載された森づくり会議の設立や森づくり計画の樹立に向けて豊田市と共働して説明会を行いました。また、豊田市より補助を受けて森のカルテ事業を推進しました。

（２）販売部門

（単位：㎥・百万円）

項　目		取扱量	売上
販売事業	受託販売	3,051	35
	林産物	－	35
	販売手数料	－	11

項　目		取扱量	売上
木材センター事業		13,037	183
林産事業	受託生産	9,480	126
	買取林産	1,442	200
	請負林産	5,573	51

（３）加工部門

（単位：千円）

項　目	取　扱　額	項　目	取　扱　額
加　工　製　品	47,229	チップ・オガコ	819
杭	11,805	賃　挽　き	3,072

（４）森林整備部門

（単位：千円）

項　目		売り上げ
森林整備	森林整備・治山・林道等	497,752
利用事業	下山開発事業・とよた森林学校・森林整備支援交付金等	279,560
購買事業	苗木・肥料・チェンソー等	50,606

（５）とよた森林学校

平成 18 年度から豊田市の委託により、とよた森林学校の運営を受託しました。19 年度は年間 80 日の講座と延べ 1,153 人の受講者に応対しました。

第３章　新しい森林施策の方向

Ⅰ　高性能林業機械の導入

間伐を推進するためには、切置き間伐だけでなく利用間伐を推進することも重要であり、その手段として高性能林業機械の活用を推奨しています。高性能林業機械とは、1991 年に農林水産省が公表した高性能林業機械化促進基本方針に掲げた多機能で作業性能の高い伐出用機械及び育林用機械をいいます。

豊田森林組合では､財団法人愛知県林業振興基金から高性能林業機械をレンタルで借り受け、平成 12 年度から施業を行ってきました。今年度も豊田市から借上げ料の 1/2 の補助を受け、9 台の高性能林業機械をレンタルし、施業を行いました。オペレーターの技術も向上してきましたので、20 年度には、国の補助を受け、新たに３台購入する予定です。

＜豊田森林組合における利用実績＞　（単位：台）

機　　種	H17	H18	H19
スイングヤーダ	2	2	2
プロセッサー	2	3	3
フォワーダ	2	2	2
タワーヤーダ	1	2	2

(注)財団法人愛知県林業振興基金からのレンタル　　資料：豊田森林組合

〈スイングヤーダ〉

〈プロセッサー〉

〈フォワーダ〉

Ⅱ　巻枯らし間伐の推進

巻枯らし間伐は、木の根元に近い幹で、樹皮と維管束（道管・形成層・師管）を１ｍ程度の幅でリング状に全周剥ぎ取る作業です。こうして水や養分の流通を絶ち、立ったままでその木を枯らします。枯れるまでに、ヒノキは約１年、スギは約２年を要します。

今後針広混交林をめざす場合は、通常の切置き間伐に加えて巻枯らし間伐を推進していきます。

森林課主催イベントとして、８月 29 日に御内市有林において巻枯らし間伐の体験イベントを開催しました。

また 19 年度には、城山市有林で 3.32ha の巻枯らし間伐を実施しました。

〈巻枯らし間伐体験イベントの様子〉

Ⅲ　企業やボランティアとの共働による森づくり

従来より間伐を始めとした森林作業は、森林組合や森林所有者が県等から補助金を受けて実施してきました。しかし、近年各地で企業やボランティアが森づくりに参加するようになってきました。そこで市は、構想における基本理念の中で「市民・企業・ボランティアなどとの共働による森づくりの推進」をうたい、森づくりの柱のひとつに位置づけました。

１．企業との共働による森づくり

市は、企業も森づくりの応援団の１人として捉え、構想や基本計画に沿って「企業のＣＳＲ活動と連動した共働の森づくり」を進めるため、企業の森林ボランティア活動の受入、技術指導、助言、活動フィールドの紹介等を行いました。

２．ボランティアとの共働による森づくり

条例に規定する「市民との共働による森づくり」や構想にある「市民開放林」などの施策を展開するため、森林ボランティアに検討会議及び車座懇談会に出席していただき、その意見を組み入れた上で、「森林活動の森・大洞」の設置を決定しました。なお、実際の活動は平成 20 年度から開始します。

一方、森林ボランティアへの支援としては、新規結成のグループ等に対する初期の物品購入支援補助金及び、既存グループが安全な作業を推進するために加入した傷害保険料に対する補助金を交付しました。また、継続的な活動を推進するために、森林学校で中級森林ボランティア向けの間伐技術ステップアップ講座を開催し、安全で技術がしっかりした森林ボランティアの養成を行いました。一部のグループとは、協定を締結し、市有林を活動フィールドとして提供しました。

〈第４回矢作川森林協議会の状況〉

また、森林ボランティア団体等が主催する「矢作川森の健康診断」始め各種イベントに市が協力し、逆に市が主催する森づくりフェスティバル等では、森林ボランティアが協力するという、相互協力の関係がより一層強まりました。

今後も、森林ボランティアとの共働により森づくりを推進していきます。

Ⅳ　あいち森と緑づくり事業の新設

愛知県では、県民共通の財産である豊かな森と緑を次世代に引き継いでいくために、平成 18 年度に「森と緑づくりのための税制検討会議」を開催し、必要な施策やその費用負担のあり方について検討してきました。これを踏まえて平成 20 年２月の県議会において「あいち森と緑づくり税条例」と「あいち森と緑づくり基金条例」が議決されました。これにより年間で約 22 億円の税収を見込まれ、当面税は５年間課税されますが、事業は、10 年間の計画として実施されます。事業内容については、人工林整備・里山林整備・都市緑化・横断的施策の４分野で検討中です。

平成 20 年度に基金条例が施行となり、モデル事業を実施しつつ具体的な計画の策定が行われます。そして平成 21 年度に税条例が施行となり、本格的に事業が実施されます。

本市では、条例及び構想に基づき、あいち森と緑づくり事業にも即した森林整備を進めるため、県と連携していきます。

第４章　平成１９年度に実施した森林施策

Ⅰ　平成 19 年度　予算執行実績

１．歳入決算額

（単位：千円）

項　　目	H18	H19	比較
(1)林業費負担金	3,928	3,970	42
(2)林業使用料	404	435	31
(3)林業費補助金	310,897	230,096	△80,801
(4)林業費交付金	36,971	29,207	△7,764
(5)土地建物貸付収入	3,356	4,496	1,140
(6)財産運用収入	231	1,450	1,219
(7)生産物売払収入	5,978	30,736	24,758
(9)雑　入	72,232	36,897	△35,335
合　　計	433,999	337,287	△96,712

２．歳出決算額

（単位：千円）

項　　目	H18	H19	比較
(1)　流域森林保全啓発費	223	0	△223
(2)　林業振興事務費	11,278	10,122	△1,156
(3)　市有林管理費	20,712	51,061	30,349
(4)　林業労働力対策費	3,132	2,256	△876
(5)　矢作川水源林対策費	39,150	57,492	18,342
(6)　森林病害虫防除費	120	0	△120
(7)　林業振興指導費補助金	7,800	6,325	△1,475
(8)　森林会館費	2,256	1,823	△433
(9)　造林推進費補助金	5,511	441	△5,070
(10)　林道整備事務費	3,826	7,249	3,423
(11)　林道開設費	186,867	233,231	46,364
(12)　林道舗装費	96,381	102,587	6,206
(13)　林道改良費	31,157	50,989	19,832
(14)　林道修繕費	5,528	11,550	6,022
(15)　林床栽培園設置推進費補助金	2	185	183
(16)　環境林整備費	1,487	16,102	14,615
(17)　森林整備市民活動費	210	722	512
(18)　間伐材搬出利用促進費	7,130	8,506	1,376
(19)　公共造林推進費	13,451	22,791	9,340
(20)　高性能林業機械施業促進費補助金	798	2,295	1,497
(21)　森のカルテ作成費補助金	5,000	3,015	△1,985
(22)　新市森林保全計画策定費	15,179	0	△15,179

(23)　新市森林保全費	0	7,128	7,128
(24)　(仮)森づくり委員会費	749	0	△749
(25)　とよた森林学校費	6,068	24,425	18,357
(26)　林道維持管理費	2,020	19,592	17,572
(27)　豊田市木材需要促進センター（モッキー）費	529	156	△373
(28)　森林整備地域活動支援費	49,417	38,941	△10,476
(29)　フォレストコミュニティ総合整備費	148,527	29,443	△119,084
(30)　作業道開設費	9,055	0	△9,055
(31)　森林組合林道整備費補助金	41,174	15,960	△25,214
(32)　足助農林センター費	2,565	2,691	126
(33)　森林組合運営費補助金	7,000	0	△7,000
(34)　林道管理調査費	0	9,919	9,919
(35)　森づくり普及啓発費	0	2,919	2,919
(36)　県派遣職員人件費負担金	5,483	0	△5,483
(37)　水源保全林整備費	43,689	0	43,689
(38)　人件費	0	548	548
(39)　森づくり基金積立金	0	2,000,000	2,000,000
合　　計	783,311	2,740,474	19,57,163

Ⅱ　平成 19 年度事業実績と進捗状況

平成 19 年度の事業実績と進捗状況を「豊田市森づくり基本計画」における重点プロジェクト及び主要な施策の区分に基づき、次のとおり取りまとめました。

１.「とよた森づくり委員会」の開催と「豊田市森づくり基本計画」の策定

条例第 20 条の規定に基づき 17 年度に設置した「とよた森づくり委員会」は、19 年度に次のような活動をしました。市は、今後も同委員会と綿密に協議しつつ、十分に連携をとっていきます。なお委員会の資料・会議録は、市のホームページにすべて掲載してあります。

①委員会名簿

【任期 H19.7.17～H21.7.16】

役　職	氏　　名	所　　属　　等
会　長	岡本　　譲	学識経験者
副会長	中根　芳郎	豊田森林組合代表理事組合長
委　員	板谷　明美	三重大学大学院生物資源学研究科准教授
委　員	稲垣　久義	矢作川水系森林ボランティア協議会副代表
委　員	大江　　忍	NPO 法人「緑のネットワーク」理事長
委　員	大畑　孝二	(財)日本野鳥の会
委　員	九澤十三夫	公募委員
委　員	蔵治光一郎	東京大学大学院農学生命科学研究科講師
委　員	澤田恵美子	豊田市消費者グループ連絡会会長

委　員	鈴木　禎一	あさひ製材協同組合専務理事
委　員	中泉　祐子	公募委員
委　員	山本　薫久	NPO 法人「都市と農山村交流スローライフセンター」代表
委　員	山本　輝夫	連合愛知豊田地域協議会事務局長
委　員	和出　英俊	森林所有者

(注)委員はあいうえお順に掲載。　　資料：森林課

②委員会の開催状況

委員会	開催日	場　　所	出席委員	協　議　事　項
第１回	7 月 17 日 （火）	豊田市役所 南 52 会議室	14 名	森づくり委員会の役割と概要について 「基本計画」の素案について
第２回	9 月 18 日 （火）	豊田市役所 南 51 会議室	14 名	パブリックコメントの結果について 基本計画の主な修正点について
第３回	11 月 14 日 （水）	豊田市役所 南 52 会議室	13 名	基本計画について 来年度予算について 地域森づくり会議について 森づくり月間について
第４回	３月３日 （月）	豊田市職員会館 ３階第１部室	12 名	平成 20 年度当初予算について 地域森づくり会議について 市民へのＰＲ・啓発活動について等

資料：森林課

③自主検討会の開催

委員会	開催日	場　　所	出席委員	協　議　事　項
第１回	7 月 31 日 （火）	豊田市職員会館	14 名	豊田森林組合の現状について
第２回	8 月 23 日 （木）	豊田市職員会館	14 名	同　　上

資料：森林課

２．具体的施策（その 1）　－重点プロジェクト－

市は基本計画の中で、10 年間に 25,000ha の間伐を実施するという基本的施策を達成するために、次の６つのプロジェクトを重点プロジェクトと定めました。平成 19 年度は基本計画の事業期間（20 年度～29 年度の 10 年間）には入っておりませんが、その前段階として、次のとおり試行的に各種事業を実施しました。

（１）間伐推進プロジェクト

本プロジェクトでは、森林区分に応じ、さまざまな事業を組み合わせて「切置き」「巻枯らし」「利用」の３種類の間伐を実施しました。19 年度は全体で間伐を 1,280ha の間伐を実施しましたが、前年度に比較して、65ha の減少となっています。これは最も間伐が進行する冬期に、積雪と凍結により、足助地区・稲武地区などで間伐作業が停滞したことが主な原因です。今後は、夏期に実施する巻枯らし間伐の推進や間伐事業の早期発注、間伐する作業班の増強などにより、１年間を通して間伐が実施できる事業体の育成・強化が課題です。

①間伐実施面積

（単位：ha）

区分			H17	H18	H19	H20～H29 累計目標値
国県実施事業	保安林事業		347	346	421	3,200
	農林公社事業		254	151	106	2,500
	豊かな生命の森整備事業	奥地林	－	－	－	5,090
		公道沿	－	－	－	
	県有林事業		43	47	14	－
	計		644	544	541	10,790
市事業補助対象等	切置き	森林区分ＡＢＣ	546	697	680	5,900
		森林区分　Ｄ				3,310
	巻枯らし	森林区分　Ｄ	－	－	3	2,000
	利　用	森林区分　Ａ	80	100	48	3,000
	計		626	797	731	14,210
自力施業			0	10	8	－
合計			1,270	1,351	1,280	25,000

(注)森林区分ＡＢＣＤは「100年の森づくり構想」による。　　資料：森林課・豊田森林組合

②平成19年度豊田市予算に関わる間伐事業の実績

市は、県や(財)矢作川水源基金が実施する間伐補助事業に対する補助金の上乗せ、市が全国に先駆けて実施してきた水道水源保全事業等により、合計731haの間伐を実施しました。なお、19年度に実施した市有林内での間伐は、同年度に限り公共造林推進事業の補助対象となったため、( )書きの内数で表示しました。

〈平成19年度豊田市間伐事業内訳〉　（単位：ha・千円）

	事業量	事業費	財源内訳			
			国・県補助金	市費	(財)矢作川水源基金	所有者負担金
公共造林推進事業	438	87,849	59,051	23,232	－	5,566
矢作川水源林対策事業	216	34,642	－	13,859	16,805	3,977
巻枯らし間伐促進事業	－	－	－	－	－	－
水源環境保全林整備事業	76	15,220	－	15,220	－	0
市有林施業管理事業	(35)	(31,877)	(10,328)	(21,549)	－	－
合計	731	137,711	59,051	52,311	16,805	9,543

資料：森林課

③平成19年度間伐事業の市上乗せ補助率一覧表

事業名	補助対象経費	補助率
矢作川水源林対策事業	(財)矢作川水源基金が定める水源林地域対策事業業務方法書及び水源林対策事業助成金交付要領に準ずる。	間伐率30%以上の間伐で9／10以内
間伐促進事業	県の定める森林造成等補助金交付要領及び造林事業実施要領に基づき、実施する間伐に要する経費。ただし、間伐率30%以上の切置き間伐に限る。	間伐に要する経費の9割から県補助金を引いた額

高齢級間伐促進事業	県の定める森林造成等補助金交付要領及び小規模森林育成事業実施要領に基づき、実施する間伐に要する経費。ただし、間伐率30%以上の切置き間伐に限る。	間伐に要する経費の９割から県補助金を引いた額

（２）団地化促進プロジェクト

市は、地域における間伐事業の推進組織である「森づくり会議」及び実際に間伐を集団的に実施する「森づくり団地」の設定を、間伐推進のために最も重要な手法と位置付け、強力に推進することを定めました。19年度は、20年度からの本格実施を前に、地区説明会等を開催するとともに、その手法の確立や手間数の算定などを目的として、各地で森林施業団地化モデル事業４ケ所を実施した結果、15地区において森づくり会議を設立することができました。

①森づくり会議の設立数と森づくり団地計画樹立面積

区　　分	H29年度までの目標値	H19 設立数・計画面積	進捗率
森づくり会議設立数	231地区	15地区	6.5%
森づくり団地計画樹立面積	15,000ha	0ha	0%

資料：森林課

②平成19年度に設立された森づくり会議

No.	森づくり会議の名称	構成員数(人)	設立年月日	会議の区域	地区
1	羽布地域森づくり会議	55	19.10.20	羽布町	下山1
2	阿蔵地域森づくり会議	25	19.11.17	阿蔵町	下山2
3	田津原地域森づくり会議	24	19.11. 3	田津原町、牛地町(一部)	旭　1
4	野林地域森づくり会議	13	19.12.13	野林町、篭林町(一部) 国谷町(一部)	足助1
5	東大林町地域森づくり会議	30	19.12.19	東大林町	下山3
6	加塩地域森づくり会議	32	20. 1. 1	加塩町	旭　2
7	榊野地域森づくり会議	46	20. 1. 1	榊野町、万根町	旭　3
8	小田木地域森づくり会議	78	20. 3. 1	小田木町	稲武1
9	梶地域森づくり会議	14	19.10.27	大沼町(一部)	下山4
10	和合地域森づくり会議	31	20. 2. 3	和合町	下山5
11	神殿地域森づくり会議	39	20. 3. 1	神殿町	下山6
12	野原町地域森づくり会議	37	20. 3. 1	野原町	下山7
13	柵ノ沢地域森づくり会議	17	20. 2.17	花沢２組	下山8
14	太田地域森づくり会議	31	20. 3.22	太田町	旭　4
15	田平沢地域森づくり会議	13	20. 3.22	田平沢町	下山9

資料：森林課

③地域説明会等の開催状況

市の森林施策や森づくり会議に関する情報を各地域に浸透するために、まず自治区長会及び地域会議において構想及び計画の概要を説明しました。さらに地域から要望のあった集落に対

しては、地域集落説明会を開催し、職員が地域の特徴に応じて作成したパワーポイントを有効に活用して森林所有者への理解を深めました。こうした説明会を通じて、地域により、森林管理の方法や関心のあり方に大きな違いがあることがわかりました。今後は、さらに地域に密着した支援方法の確立が必要だと思われます。

・自治区長会

地　区	足助・下山・旭・稲武・小原（５地区）	回数と参加者	７回・延べ 81 名
内　容	「100 年の森づくり構想」「森づくり基本計画」の説明と地域森づくり会議設立に向けての説明会の開催依頼		

・地域会議

地　区	足助・小原（２地区）	回数と参加者	２回・延べ 37 名
内　容	「100 年の森づくり構想」「森づくり基本計画」の概要説明と森づくり会議設立の依頼		

・豊田森林組合

対　象	豊田森林組合職員・作業班員	回数と参加者	２回・延べ 127 名
内　容	「100 年の森づくり構想」「森づくり基本計画」の概要説明		

・地域集落説明会

地　　区	対象集落数（地区）	説明会実施集落数（地区）	進捗率(%)	説明会実施延べ回数（回）	延べ参加者数（人）
足　　助	63	11	17	16	240
下　　山	30	16	53	23	409
旭	38	7	18	13	175
稲　　武	13	6	46	10	144
小原・藤岡	41	10	7	3	52
旧豊田市	46	5	11	3	46
計	231	55	24	68	1,066

資料：森林課

④森林施業団地化モデル事業

森林施業団地化のモデルケースとして市内４地区で実施した結果、モデル事業区域ごとに特徴と課題、森林施業の方向性が明らかになりました。また、下山地区の羽布地域一帯が林野庁の事業である「100 年の森林づくり加速化推進事業」に採択されたことから、森林整備のグランドデザインの構築支援を行いました。

〈モデル団地の概要〉

モデル団地	対象森林面積	地域検討会議等	延べ参加者数	森林施業の方向性	事業費
	(ha)	(回)	(人)		(千円)
川面地域【足助地区】	46.6	2	25	林業経営に対する意識改善	2,916
羽布地域【下山地区】	37.4	2	37	既存林道の活用及び新規路網整備による効率的な森林整備	
榊野地域【旭地区】	28.7	2	42	針広混交林化による間伐促進	
ミヤノ洞地域【稲武地区】	67.3	2	33	新規路網整備による効率的な森林施業	

資料：森林課

（３）林業労働力確保プロジェクト

林業労働者の高齢化・人材不足が課題となっているなか、市が目指す森林整備を確実に実行するためには、Ｉターン・Ｕターン者等による、現場作業のプロ・セミプロの育成が必須な状態にあります。豊田森林組合は、愛知県下の森林組合の中では、最も有効に「緑の雇用担い手対策事業」を活用しており、若手の作業班員を順調に育成しています。

①豊田森林組合の平成 19 年度の作業班員の現状

豊田森林組合は県下で最も多数の作業班員を抱えるとともに、若手作業班員の比率が高いのが、大きな特徴です。

〈平成 19 年度豊田森林組合の作業班員の現状〉　（単位：人）

区　　分	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	計
作業班員数	11	19	22	19	75	146

(注)嘱託作業員を含む。　資料：豊田森林組合

②緑の雇用担い手対策事業

愛知県森林組合連合会からの委託を受けて、豊田森林組合が事業を実施しました。なお、豊田森林組合(旧 7 組合)は、合併前の平成 15 年度より、積極的に本事業を活用しており、現在までに 43 名の研修生を受け入れ、そのうち 39 名が終了しました。また、34 名が現在も作業班として活躍しています。

〈緑の雇用担い手対策事業に係る人材育成〉　（単位：人）

区　　分	H17	H18	H19	計
研修生数	4	6	8	18
修了者数	4	5	7	16
作業班在籍数	4	5	7	16

資料：豊田森林組合

③緑の人材活用森林整備事業

愛知県からの委託を受けて、豊田森林組合が事業を実施しました。

〈緑の人材活用森林整備事業に係る人材育成実績〉　（単位：人）

区　　分	H17	H18	H19	計
研修生数	4	13	8	25
修了者数	4	13	7	24
作業班在籍数	4	9	7	20

資料：豊田森林組合

④とよた森林学校人材育成コースのセミプロ林業作業者育成講座

とよた森林学校（Ｐ28 参照）の講座により、セミプロ的に林業作業を実施できる人材を養成しました。今後この講座の修了生が、上述の「緑の雇用担い手対策事業」と「緑の人材活用森林整備事業」へとステップアップしていくことが期待されます。

〈とよた森林学校セミプロ林業作業者育成講座〉　（単位：人）

講　座　名	年間講座回数(回)	受講者数（人）	
		H18	H19
セミプロ林業作業者養成講座	15	10	10

資料：森林課

⑤林業労働者雇用安定事業

林業労働者を安定的に確保するためには、雇用条件を少しでも良好な状況にすることが必要です。そのため、市は、(財)愛知県林業振興基金が実施している退職金共済制度を活用する事業体への助成制度に上乗せして助成することにより、林業労働者の退職金共済制度への加入を促進しています。

・退職金共済制度加入者

区　分	共済制度加入者数（人）		
	H17	H18	H19
中小企業退職金共済制度（中退共）	53	40	50
林業退職金共済制度（林退共）	33	34	7
計	86	74	57

資料：森林課

・平成 19 年度退職金共済制度補助金　（単位：人・円）

区　分	対象者数	掛金総額	補助金額	補　助　率
中退共	50	2,935,000	1,956,666	2/3 以内（市 1/3・県基金 1/3）
林退共	7	449,880	299,920	2/3 以内（市 1/3・県基金 1/3）
計	57	3,384,880	2,256,586	

資料：森林課

（４）林業用路網整備プロジェクト

林業経営林においては、持続的に林業経営を行うために林業用路網の整備が必要です。市は基本計画の中で、従来の林道等の整備に加えて、新たに豊田市基準により、地域特性に合った林道・低コスト林道・作業道・搬出路の組み合わせにより、10 年間で 200km の林業用路網の整備を進めることを定めました。

①新規路網整備延長

平成 19 年度の路網開設の実績はほぼ例年通りで推移しましたが、20 年度からは、森づくり団地の設定と平行して促進を図っていきます。

（単位：km）

区　分	新規路網整備実績			H20～H29　新規整備目標値の累計
	H17	H18	H19	
林道	1.86	2.03	1.91	40
低コスト林道	－	－	－	33

作業道（造林事業）	0.88	0.52	0	47
作業道（水源基金）	2.31	2.71	2.58	
搬出路	1.20	2.90	2.68	80
新規路網整備延長　計	6.25	8.16	7.17	200

資料：森林課

②平成 19 年度林道整備事業

本年度に豊田市及び豊田森林組合が施工した林道の開設・舗装及び改良の実績は、次のとおりです。

・林道開設（市施工）

路線名称 全体計画（m）	H19 延長 （m）	開設計 進捗率 （m･%）	財源内訳(千円) 事業費	国・県 補助金	市費
向戸線 L＝1,040　W＝5.0	106	1,040 100.0	26,250	17,500	8,750
平畑線 L＝1,900　W＝4.0	215	1,216 64.0	15,300	10,200	5,100
入道線 L＝1,500　W＝4.0	192	333 22.2	18,000	12,000	6,000
明和２号線 L＝1,800　W＝4.0	316	1,099 61.1	31,176	20,000	10,241
エス小屋２号支線 L＝2,600　W＝4.0	238	1,108 42.6	14,487	9,000	5,052
切山鋳師釜線 L＝4,151　W＝4.0	423	3,461 83.4	16,293	12,320	3,484
堤上知祖線 L＝5,400　W＝4.0	239	679 12.6	36,467	23,800	11,573
野入立野線 L＝2,000　W＝4.0	184	184 9.2	33,882	22,000	10,866
８路線 合　計	1,913		191,855	126,820	61,066

(注)財源内訳には、国・県補助金、市費の他に事業費の３％にあたる受益者負担金があります。

資料：森林課

・林道舗装事業（市施工）

路線名称 全体計画（m）	H19 延長 （m）	舗装 延長 （m）	進捗率 (%)	財源内訳(千円) 事業費	国・県 補助金	市費
猿投山１号線 L＝2,524　W＝4.0	1,090	2,524	100.0	24,000	12,000	12,000
古田代線 L＝2,316　W＝4.0	96	2,316	100.0	1,860	1,240	620
平畑線 L＝1,900　W＝4.0	320	1,038	54.6	5,700	3,800	1,900
浅野線 L＝9,200　W＝4.0	810	1,567	17.0	19,600	5,880	13,720
池嶋御蔵線 L＝8,345　W＝4.0	216	8,345	100.0	4,800	3,200	1,600
藤立線 L＝2,179　W＝4.0	228	1,967	90.3	6,600	4,400	2,200
ウネ畑線 L＝2,798　W＝4.0	473	1,252	44.7	9,000	6,000	3,000

羽布下り沢線 L＝10,316　W＝4.0	712	6,128	59.4	19,600	5,880	13,720
大ドヤ線 L＝1,844　W＝3.0	313	1,465	79.4	5,100	3,400	1,700
梶呂畑線 L＝3,622　W＝3.0	271	2,728	75.3	4,800	3,200	1,600
10 路線 合　　計	4,529	29,330		101,060	49,000	52,060

資料：森林課

・林道舗装事業（豊田森林組合施工）

路　線　名　称 全体計画　（m）	H19 延長 （m）	舗装 延長 （m）	進捗率 （%）	財 源 内 訳(千円)		
				事業費	県補助金	市補助金
小田木本洞線 L＝4,025　W＝4.0	623	3,232	80.3	16,500	11,000	5,500
大洞線 L＝4,402　W＝4.0	514	2,604	59.2	13,500	9,000	4,500
２路線 合　　計	1,137	5,836		30,000	20,000	10,000

資料：森林課

・林道改良事業（市施工）

路　線　名　称	施工延長 （m）	主な工種	財　源　内　訳(千円)		
			事業費	県費	市費
戸越西市野々線	28	法面保護	4,200	2,800	1,400
日面線	36	法面保護	3,600	2,160	1,440
石ノ郷線	220	舗装改良	3,555	2,133	1,422
竜岡伊勢神線	55	法面保護	5,400	3,600	1,800
北ノ平線	72	法面保護	5,400	3,600	1,800
羽布下り沢線	57	法面保護	5,400	3,600	1,800
洗出線	25	法面保護	3,000	1,800	1,200
茶臼山線	22	路肩保護	3,045	1,827	1,218
池島御蔵線	76	法面保護	5,400	3,600	1,800
梶呂畑線	12	路肩保護	2,500	1,500	1,000
野入月ヶ平線	55	法面保護	5,400	3,600	1,800
11 路線 合　　計	658		46,900	30,220	16,680

資料：森林課

・林道改良事業（豊田森林組合施工）

路　線　名　称	施工延長 （m）	主な工種	財　源　内　訳(千円)		
			事業費	県補助金	市補助金
大 洞 線	11	路肩保護	1,425	855	570
ウトウ線	25	路肩保護	3,950	2,370	1,580
大 給 線	14	路肩保護	1,900	1,140	760
３路線 合　　計	50		7,275	4,365	2,910

資料：森林課

③平成 19 年度作業道整備事業（矢作川水源林対策事業・豊田森林組合施工）

本年度に、(財)矢作川水源基金の補助事業を活用して、豊田森林組合が施工した作業道開設の実績は、次のとおりです。

路線名称	地区	延長(m)	幅員(m)	事業費	財源内訳（千円）		
					市補助金	水源基金	受益者負担
藤巻３号線	下山	436	3.0	3,822	1,414	2,293	115
北篠平蔵屋敷線	小原	486	3.0	2,939	1,087	1,763	89
カウロゲ線	足助	730	3.0	5,232	1,935	3,139	158
爺ケ洞西垣内線	旭	358	3.0	2,899	1,072	1,739	88
井ノ入支線	稲武	573	3.0	5,083	1,880	3,049	154
合計		2,583		19,975	7,388	11,983	604

資料：森林課

④平成 19 年度搬出路整備事業（豊田森林組合施工・代理申請）

本年度に市の補助金を活用して、豊田森林組合及び森林所有者が施工した搬出路開設の実績は、次のとおりです。

施工箇所	地区	施工主体	延長(m)	幅員(m)	事業費	財源内訳（千円）	
						市補助金	受益者等負担
大平町半ノ木	小原	森林組合	1,077	2.5	1,615	484	1,131
稲武町井山	稲武	森林組合	321	2.5	481	144	337
押井町親田	旭	森林組合	48	2.5	72	22	50
旭八幡町後洞	旭	森林組合	35	2.5	53	16	37
上八木町萩ノ田	足助	森林組合	68	2.5	102	31	71
千田町柿山	足助	個人	335	1.5	201	60	141
怒田沢町田ノ口	足助	個人	59	1.5	36	11	25
野原町山下	下山	個人	80	1.5	48	14	34
野原町小田作	下山	個人	355	1.5	213	64	149
上佐切町日向	足助	個人	300	1.5	180	54	126
10 路線 合計			2,678		3,001	900	2,101

資料:森林課

⑤過疎山村地域代行林道整備事業（愛知県施工）

市内で愛知県が直接開設した林道の実績は、次のとおりです。

（単位：m）

路線名称 全体計画	開設延長			開設済延長	進捗率(%)
	H17	H18	H19		
羽布下り沢線 L=10,136 W=4～5.0	282	1,069	－	10,136	100.0
河上瀬柏洞線 L=9,300 W＝4.0	593	479	578	6,046	65.0
浅野線 L=9,200 W＝4～5.0	242	346	509	5,166	56.2
３路線 合計	1,117	1,894	1,087	21,348	

資料：森林課

（５）素材生産の効率化・低コスト化プロジェクト

木材価格の長期低迷や人件費の上昇等により、人工林の採算性が悪化し、結果的に間伐遅れの森林が増加しています。特に林業経営林の間伐を推進するためには、素材生産経費のコストダウンが必要だと考えられます。市は林業事業体の高性能林業機械導入の動きに対して助成策をとっています。

①豊田森林組合の高性能林業機械保有数

豊田森林組合は、県林業振興基金が購入した高性能林業機械をレンタルにより使用しています。

（単位：台）

機　械　名　称	H17	H18	H19
スイングヤーダ	2	2	2
プロセッサー	2	3	3
フォワーダ	2	2	2
タワーヤーダ	1	2	2

(注)愛知県林業振興基金からのレンタル。　　資料：豊田森林組合

②高性能林業機械を活用した間伐施業（豊田森林組合施業）

豊田森林組合が高性能林業機械を使用して列状間伐等により実施した間伐面積及びその素材生産量は次のとおりです。

	施　業　実　績		目　標　値
	H18	H19	H24
利用間伐面積(ha)	51	50	230
素材生産量(㎥)	3,320	6,826	15,000

資料：豊田森林組合

③高性能林業機械施業促進補助金

市は、県林業振興基金からレンタルして、高性能林業機械を使用している豊田森林組合に対して、利用料の 1/2 を助成しています。

（単位：台・千円）

区　　分	H17	H18	H19
対象台数	7	9	9
補助金額	2,211	4,494	4,950

資料：森林課・豊田森林組合

（６）木材利用促進プロジェクト

今後、国内木材資源は増加の一途をたどり、間伐の推進等により素材生産量の増加が見込まれます。間伐を一層促進するためには、木材を利用することが重要となります。そこで、市は公共施設における地域材あるいは国産材の使用を促進するとともに、間伐材の出荷を奨励するために助成措置を講じています。

①市の公共事業における国産材の使用量

市は、学校の校舎や内装、学校机の天板、公共施設などに地域材あるいは国産材を使用して、

木材の良さをＰＲしていきます。なお、学童机は 350 台を導入しました。

〈市公共事業の国産材使用量〉

用　　途	使　用　量　（㎥）			目標値（㎥）
	H17	H18	H19	H24
建設用資材	129.32	193.55	271.48	600
建築等用材	272.46	89.27	217.04	
チップ材	15.30	165.20	0.24	
合　　計	417.08	448.02	488.76	

資料：技術管理課

〈天板に豊田市産材を使った学童机〉

〈浄水駅地下通路の壁材〉

②間伐材市場出荷奨励事業

木材価格に比較して人件費を要することから、採算性が低い、小径の間伐材の出材を促進するため、豊田森林組合の木材センターに出荷された間伐材について、出荷者及び森林組合に対して助成措置を講じています。

区　　分	事　業　実　績		
	H17	H18	H19
補助対象出荷素材量(㎥)	1,561.3	1,876.2	2,463.3
間伐材市場出荷奨励補助金(千円)	2,682	3,290	4,298

資料：森林課

３．具体的施策（その２）　－その他の主要な施策－

（１）森林の現況把握に関する施策

現在、森林の現況を把握するデータとしては、県作成の森林簿と市作成の航空写真及び土地台帳の３種類がありますが、互換性がないうえに、その一元管理もまだ出来ていません。今後は、地籍調査の実施や森林ＧＩＳの導入が期待されます。

①森のカルテ作成事業（豊田森林組合事業）

現在､森林施策の基礎となる森林現況の把握が十分ではありません｡将来的には地籍調査　の実施が期待されますが、とりあえず人工林の現状を調査・把握し、データ収集するとともに、森林所有者にも現況を認識してもらうことを目的として、市は平成 17 年度より「森のカルテ作

成事業（人工林の診断書の作成）」を実施しています。市は森林組合が作成する森のカルテ作成事業に要した経費の 1/2 を助成しています。

〈森のカルテ作成事業実施状況〉

区　　分	H17	H18	H19	累計
調査対象面積（ha）	234.00	423.93	320.89	978.82
森のカルテ調査箇所数	468	751	606	1,825

資料：森林課

〈森のカルテ作成事業補助金額〉　（単位：千円）

区　分	事　業　費	うち市補助金	補　助　率
H17	10,048	5,000	1/2 以内
H18	7,915	3,958	
H19	6,032	3,016	

資料：森林課

②森林ＧＩＳの導入

市は、独自の豊田市版森林ＧＩＳの導入を目指して、平成 19 年度より専門業者に委託して、その機能等について基礎的な仕組みを決定しました。今後は、平成 22 年度の本格稼動に向けて、さらに検討を重ねていきます。

委 託 業 務 名	委 託 料	内　　容
豊田市森林ＧＩＳ開発導入業務委託(基本設計)	2,992 千円	市森林ＧＩＳ稼動に向けてのシステム構成、機能など全体事業計画を策定した。

（２）木材以外の森林資源の活用に関する施策

森林から得られるさまざまな林産物は、将来的には大きな地域資源となることが期待されます。これらの取組みは、民間事業体・地域住民・ＮＰＯ等が事業主体となります。

①林床栽培園設置推進事業

市は、平成 17 年度より森林内の林床を活用して、キノコ・花木・山菜などを栽培する団体に対し助成をしてきましたが、平成 19 年度は原木マイタケを栽培する２団体に補助金を交付しました。

年　　度	補助金交付団体数	補助金交付額	補　助　率
H17	1	2,305 円	３/10 以内
H18	2	200,000 円	
H19	2	185,535 円	

資料：森林課

②木質バイオマスエネルギーの研究

地球温暖化対策に対する社会の要請に対応し、本市における今後のバイオマスの利活用に向けた取り組みを検討するため、環境政策課・企画課を中心に、森林課を含めた庁内の関係９課の担当者で構成する「バイオマス検討会」を設置しました。また、環境政策課が中心となって

「バイオマス利用可能性基礎調査」を実施しました。この中で、未利用の木質資源として林地残材を中心に 125,302ｔが賦存すると計算されましたが、実際の利用にあたっては、搬出のコストの負担等の問題が未解決で、さらなる詳細な調査研究が必要です。

（３）とよた森林学校に関する施策

市は、森林・林業に関わるさまざまな人材の育成と一般市民への普及を目的として、市町村レベルでは全国初の事例となる「とよた森林学校」を平成 18 年度から開校しました。講座内容については市が企画し、運営は豊田森林組合に委託して、平成 19 年度は次の 15 講座を実施しました。さらに、事務局が自主的に企画・運営する自主企画講座を５回、学校等からの依頼に基づき森林課職員が講師を務める出前講座を 35 回開催しました。ほとんどの講座で定員を越える応募があり、市民の関心の高さがうかがわれました。今後は、さらに新しい参加者を迎えるためのＰＲ強化と、内容の充実が必要となります。

①森林活動に関わる人材の育成

間伐を実施したり、森林自然観察会を行ったりする人材の育成を目的として、次の７講座を開催しましたが、全講座で定員を上回る応募がありました。

人材育成コース（７講座）	年間開催講座日数	受講者数（人）	
		H18	H19
素人山主　森林経営講座	9	12	13
自然観察リーダー　養成講座	9	9	11
森林ふれあい講座	6	－	15
間伐応援団　養成講座	3	20	20
セミプロ林業作業者　養成講座	15	10	10
間伐技術　ステップアップ講座	9	10	9
計	51	61	78

資料：森林課

②森の応援団の育成

一人でも多くの市民の方々に、森林の現状や課題、森林の楽しみ方などを理解して関心を持っていただくことを目的として、次の９講座を開催しました。ほとんどの講座で定員を上回る応募がありました。

森の応援団コース（９講座）	年間開催講座日数	受講者数（人）	
		H18	H19
森林セミナー	3	60	48
間伐材からベンチづくり	4	15	16
矢作川源流の森観察会	3	25	20
原木きのこづくり(マイタケ＆ヒラタケ)	2	39	19
原木きのこづくりⅡ	1	20	11
夏休み親子森林自然教室	2	23	14
樹木分類教室	3	20	49

森の達人を訪ねて	3	－	23
木づかい見学会	3	29	18
やってみよう！森林の健康診断	2	20	－
計	26	251	218

資料：森林課

③自主企画講座

森林学校の正規講座以外に、事務局が独自に企画・運営する自主企画講座を５回開催しました。森林学校卒業生に対する講座の開催が期待されます。

講　　座　　名	年間開催講座回数	受講者数(人)
		H19
簡易製材機講習会	1	23
秋を見つけよう森の観察会	1	17
間伐応援団養成講座ＯＢ会	1	11
山主の集い	1	5
泉福寺観察会	1	37
計	5	93

資料：森林課

④出前講座の開催

平成 19 年度は、市内の小学校を中心として、森林観察や間伐体験等の要望に応じて、森林課職員が講師を務める出前講座を 18 団体、延べ 35 回開催しました。

年　度	申込み団体数	年間延べ開催数	延べ参加者数	派遣職員延べ人数	内　　容　　等
H18	15	39 回	1,017 人	48 人	森の自然観察、間伐体験、森のはたらき学習会　など
H19	18	35 回	1,054 人	52 人	

資料：森林課

⑤事務局・スタッフの体制

校　　長	外部から選任（島﨑洋路　元信州大学教授）
副 校 長	豊田森林組合代表理事組合長
事務局長	豊田森林組合総務担当常務理事
事 務 局	豊田森林組合職員（３名）
	ＮＰＯ法人都市と農山村の交流スローライフセンター（２名）

⑥とよた森林学校運営検討委員会

とよた森林学校の講座内容や運営方法等について意見を伺うために、運営検討委員会を２回開催しました（８月 31 日、３月 18 日）。

〈とよた森林学校運営検討委員会の構成員〉

	氏　　名	団体等の名称	役職名等
1	島﨑　洋路	とよた森林学校	校長
2	芝野　博文	東京大学大学院愛知演習林	演習林長
3	中根　芳郎	豊田森林組合	代表理事組合長
4	稲垣　久義	矢作川水系森林ボランティア協議会	副代表
5	大畑　孝二	豊田市自然観察の森	所長
6	相良　洋子	とよた森林学校受講者代表	自然観察リーダー養成講座
7	築山　慶紅	とよた森林学校受講者代表	素人山主森林経営講座
8	原田　裕保	豊田市産業部森林課	課長
オブザーバー			
9	加藤　龍己	愛知県豊田加茂農林水産事務所森林整備課	課長

資料：森林課

（４）山村地域の活性化と文化の伝承に関する施策

平成 19 年度は、特別な事業は実施していませんが、今後は、とよた森林学校の講座の中で、文化の伝承等に関する内容を取り入れていきます。

（５）ＮＰＯ・森林ボランティア等との共働による森づくりに関する施策

豊田市を中心として矢作川流域は、全国的に見ても人工林活動を主とした森林ボランティア活動が盛んな地域のひとつです。市は、こうした森林ボランティアやＮＰＯの方々、さらに企業と連携を深めて、相互理解のもと、共働による森づくりを推進していきます。

①「森林活動の森・大洞」の推進

市有林の中から、市民等で構成されるグループが計画的に間伐や自然観察などの森林活動を実施する場を提供することを目的とした「(仮)市民の森」の設定に向けて、検討会等を開催するとともに、植生調査や構想のとりまとめを専門業者に委託しました。平成 20 年度から大洞市有林を「森林活動の森・大洞」として事業展開をしていきます。

・構想策定業務

委　託　業　務	事　業　費	内　　容
「市民の森」構想調査委託	2,573 千円	構想策定・現況調査・植生調査

資料：森林課

・検討会等の開催

会議等の名称	開催日時	参加者	内　　容
第１回検討会	11 月 5 日	7 人	現地視察・意見交換
車座会議	11 月 12 日	19 人	〃
第２回検討会	11 月 26 日	8 人	車座懇談会での意見紹介・利用方針
第３回検討会	12 月 17 日	9 人	基本構想(案)・名称の検討

資料：森林課

②森林ボランティア活動の支援

市内の人工林を活動場所としている森林ボランティアは、平成19年度現在で８団体あります。今後も、とよた森林学校の修了生から構成されたグループなどが新たに結成されることが予想されます。市としては、森林ボランティアが自立の精神を持って活動できるような支援をしていきます。

・森林ボランティア始動支援補助事業

森林ボランティアグループが活動を始めるに当たっては、いろいろな活動用具の整備が必要となります。市は、平成17年度よりそうした団体に対して、初動の２年間に限り、助成を行っています。

年　度	補助対象団体数	構成員数	補助金交付額
H17	2	35人	210,467円
H18	2	35人	175,000円
H19	3	45人	200,000円

資料：森林課

・森林ボランティア安全対策補助事業

活動に伴う傷害保険の加入を促進するための補助事業を18年度より実施しています。

年　　度	補助対象団体数	構成員数	補助金交付額	補　助　率　等
H17	－	－人	－円	ボランティア保険料の1/2以内
H18	2	44人	204,486円	
H19	7	167人	462,535円	

資料：森林課

③企業・団体の森づくり活動に対する支援

・みどりの少年団活動補助事業

平成19年度より本事業の所管が公園課から森林課に移管されたことから、市内の７団体に対して助成を行いました。

年　　度	補助対象団体数	構成員数	補助金交付額	補　助　率　等
H17	(3)	(68)人	(224,000)円	100千円定額
H18	(6)	(400)人	(540,000)円	足助・萩野・簗羽・花山・土橋・堤・豊松の各小学校
H19	7	405人	700,000円	

(注)H17、18年度実績数字は、公園課資料による。　　資料：森林課・公園課

・企業等と共働した森づくり

近年、市内外の企業が市内で森づくり活動を求める事例がいくつか見られます。例えば、系列会社が所有する山林で各種の森林活動をイベントとして開催する事例、市有林を利用して間伐活動を行う事例などがあります。今後もこうした要望は増加すると考えられることから、「森林活動の森・大洞」を始めとした市有林の活用を中心として対応していきます。

④とよた森づくりの日ととよた森づくり月間による普及啓発活動

市は、条例第16条第２項の規定で、10月を「とよた森づくり月間」、10月26日を「とよた森づくりの日」と定めました。森づくりに関する普及啓発は、とよた森林学校や日常の活動等でも行いますが、この期間には、次のとおり集中的に各種行事を実施しました。

・とよた森づくりの日に実施した普及啓発活動『森づくりフェスティバル』

イベント名称	開催日時	開催場所	参加者	内　　容
森づくりシンポジウム	10月27日 （土）	豊田産業文化センター	98人	基調講演　講師：青山佳世 パネルディスカッション
森づくりイベント	10月28日 （日）	旭高原元気村	282人	人工林・天然林見学ツアー、木づかい見学会、巨樹巨木見学ツアー、森林観察会、間伐体験、きのこ料理　など

資料：森林課

・とよた森づくり月間（10／１～10／31）に実施した普及啓発活動

普及啓発活動	開催日時	開催場所	参加者	内　　容
森づくり月間 キックオフイベント	10月１日 （月）	豊田市駅前	500人	ＰＲパンフレットとヒノキ割り箸の配布（500部）
ＰＲ横断幕の掲示	10月１日 ～30日	豊田市役所 歩道橋通路	－	
とよた森林学校講座	４講座	市　　内	84人	森林ふれあい講座 樹木分類講座　など
とよた森林学校 出前講座	延べ８回	市　　内	221人	市内３小学校、トヨタボランティアセンター、豊田市消費者グループ連絡会など
森づくり会議 設立説明会	延べ12回	田津原地区 始め５地区	211人	森づくり構想・計画、森づくり会議等の説明
ふれあい体験 イベント	10月13日 （土）	賀茂県有林	54人	愛知県主催事業 間伐体験　など
水源の森づくり プロジェクト活動	10月27日 （土）	三ツ足地内	約200人	㈱デンソーユニティ、角文建設㈱
計	28回		1,270人	

資料：森林課

・市が主催する森づくり普及啓発活動

森づくりに関する普及啓発を推進するため、公募等により４回のイベントを開催しました。

普及啓発活動	開催日時	開催場所	参加者	内　　容
春を見つけよう 森の観察会	４月８日 （日）	三ツ足市有林	24人	森林自然観察など
巻枯らし間伐体験	８月29日 （水）	御内市有林	15人	巻枯らし間伐体験 森林自然観察など
植樹体験会	３月20日 ３月29日 （木・土）	黒坂市有林	236人	ヒノキ3,000本と コウヤマキ・ヤマザクラの植栽
計	４回		275人	

資料：森林課

（６）事業計画・事業評価に関する施策

市は、基本計画の中で、間伐実施・間伐手法・林業用路網整備に関してモニタリングを実施することを定めています。このうち平成 19 年度は、林道調査整備事業と林道管理調査事業を活用して、次のとおり調査しました。なお、間伐に関するモニタリングについては、平成 20 年度より間伐手法ごとに下層植生の回復調査を実施していく予定です。

①林業用路網整備に関する調査

・林道調査整備事業

年度	調査地区	調査対象森林面積	調査対象林道	事　業　費
H18	下山地区	120 ha	羽布下り沢線	3,000 千円
H19	足助地区	140 ha	竜岡伊勢神線	4,000 千円

資料：森林課

・林道管理調査事業

年度	調　査　地　区	調査対象路線数	調査対象林道総延長	事　業　費
H19	藤岡・小原・旭	75 路線	104,198m	9,913 千円

資料：森林課

４．管理業務

市は、今まで述べてきた基本計画に基づく各種施策の他に、次のような管理業務を実施しています。

（１）伐採届の受理

平成 19 年度に、森林法第 10 条の８の規定に基づく「伐採及び伐採後の造林の届出」を受理した実績は次のとおりです。

〈伐採届の届出件数と届出面積〉

（単位：件・ha）

区　　分	H17		H18		H19	
	届出件数	届出面積	届出件数	届出面積	届出件数	届出面積
皆　　伐	44	11.56	41	7.76	24	21.54
間　　伐	660	729.42	1,024	647.78	958	488.42
転用伐採	106	57.81	80	20.67	133	34.12
計	810	798.79	1,145	676.21	1,115	544.08

資料：森林課

（２）豊田市森林会館の管理

平成 19 年度に、森林課が所管する豊田市森林会館の会議室等を利用した実績は、次のとおりです。前年度までに比較して平成 19 年度が大幅に増加しているのは、とよた森林学校の講座で利用したことによるものです。

〈豊田森林会館の利用件数と利用者数〉

年　　度	利用件数	利用者数
H17	32 件	775 人
H18	29 件	751 人
H19	38 件	962 人

資料：森林課

（３）市有林の管理

愛知県林業統計書では、豊田市内には 1,638ha の市有林があり、そのうち森林課が所管する市有林は、約 1,227ha あります。しかし、これらの市有林の中には、境界が明確でないものや、森林現状が明確でないものが数多く含まれています。そのため市は、平成 17 年度から平成 18 年度の２年間で、豊田森林組合に委託して「市有林長期森づくり計画」を策定しました。さらに、平成 17 年度から平成 21 年度にかけて市有林の「森のカルテ」を順次作成し、その森林現状を把握するとともに、平成 18 年度より「市有林境界確定測量」も順次実施しています。これらの管理事務が完了して初めて、市有林の現状が明らかになります。また、平成 19 年度には、造林補助事業の助成を受けて、38.6ha の間伐等を実施し、2,173 ㎥の素材を生産しました。

①市有林で実施した間伐の実績

年　度	施業箇所	施業面積	事　業　費	うち国・県補助金	備　　考
H17	13箇所	44.27ha	15,635千円	206千円	切置き間伐　34.79ha 利用間伐　3.64ha
H18	15箇所	62.02ha	45,676千円	4,241千円	切置き間伐　27.69ha 利用間伐　31.32ha
H19	10箇所	38.60ha	31,877千円	10,328千円	切置き間伐　16.58ha 利用間伐　16.04ha 巻枯らし間伐 3.32ha

資料：森林課

②平成 19 年度の区域別の施業実績

区域	施業区分	施業面積(ha)	事業費(千円)	うち国・県補助金	素　材　生　産 搬出量(㎥)	販売額(円)	備考
御内	切置き間伐	3.80	977	493	－	－	
井山	切置き間伐	12.78	3,287	1,659	－	－	
御内	支障木伐採	0.19	193	－	－	－	
城山	間伐(巻枯し)	3.32	801	227	－	－	
御内	利用間伐	6.75	7,296	2,930	605.71 (ｽｷﾞ 454.29) (ﾋﾉｷ 151.43)	6,884,652	機械施業 搬出路開設

大多賀	利用 間伐	9.29	11,789 5,017	866.35 (ｽｷﾞ 216.59) (ﾋﾉｷ 649.76)	11,755,727	機械施業 搬出路開設
黒坂	皆伐	1.17	2,548 —	268.30 (ｽｷ -) (ﾋﾉｷ 268.30)	4,702,029	
石楠	竹林整備	1.30	462 —	(94束)	165,000	
御内	搬出	(314.92㎥)	4,083 —	314.92 (ｽｷﾞ 251.94) (ﾋﾉｷ 62.98)	2,784,983	伐採は前年度
御内	搬出	(33.20㎥)	437 —	33.20 (ｽｷﾞ 9.96) (ﾋﾉｷ 23.24)	212,671	伐採は前年度
御内	素材販売	(84.24㎥)	— —	84.25 (ｽｷﾞ 33.70) (ﾋﾉｷ 50.55)	768,353	伐採・搬出は前年度
計		38.60	31,877 10,324	2,172.73 (ｽｷﾞ966.47) (ﾋﾉｷ1,206.26)	27,273,415	

(注)御内市有林の※は、施業面積でなく材積による実績のため(　)書きとした。　資料：森林課

③市有林の素材生産量（スギ・ヒノキ）

（単位：㎥・千円）

年度	販売材積	販売額	備　　考
H17	329.77	5,068	間伐　209.41㎥　支障木伐採　120.36㎥
H18	2,528.78	38,423	間伐　2322.79㎥　支障木伐採　205.98㎥
H19	2,172.73	27,664	間伐　1786.98㎥　支障木伐採　117.44㎥　皆伐　268.30㎥

資料：森林課

④市有林境界確認業務

年度	確認市有林	台帳面積（㎡）	実測面積（㎡）	立会件数	事業費(千円)
H18	二タ瀬	183,971	334,718	18 件	9,135
H19	黒坂②	305,690	278,697	17 件	10,080
	田螺池②	59,685	59,413	22 件	

資料：森林課

⑤市有林現況調査業務（豊田森林組合委託）

年度	森のカルテ作成	事業費(千円)	対　象　市　有　林
H17	318 箇所	3,034	中之御所、御所山、総山、三ツ足、岩神、大多賀、下平、西樫尾、御蔵、四ツ松、月原、伊勢神、東大見 約２５０ha
H18	320 箇所	3,045	奥山、乗越、長坂、テラゲ、峰洞、アラタ、二タ瀬①②、草木、黒坂①②、田螺池①②、和合、御内１林班、御内２林班 約２５０ha
H19	256 箇所	2,992	大洞、城山、井山、牛地、御内５林班、御内６林班 約２５５ha
計	894 箇所	9,071	

資料：森林課

（４）林道維持管理

平成 19 年度に、市が管理する林道における崩土撤去などの修繕工事を次のとおり実施するとともに、豊田森林組合が管理する林道の修繕工事に対して助成しました。

①管理の状況

・市管理林道

年　度	修　繕 路線数	延べ 修繕箇所	事　業　費 （千円）	主　な　修　繕　内　容
H17	29 路線	37 箇所	13,716	崩土撤去等
H18	39 路線	63 箇所	21,329	崩土撤去等
H19	28 路線	38 箇所	11,550	崩土撤去 12 件　路面補修　7 件 路肩保護 10 件　排水処理　5 件 施設設置　1 件　法面補修　3 件

資料：森林課

・豊田森林組合管理林道

年　度	修　繕 路線数	延べ 修繕箇所	事業費　（千円） うち市費補助金	主　な　修　繕　内　容
H17	10 路線	31 箇所	3,015 3,000	崩土撤去　1 件　路面補修　8 件 路肩保護　－件　排水処理　22 件
H18	4 路線	4 箇所	4,159 3,000	崩土撤去　1 件　路面補修　2 件 路肩保護　－件　排水処理　1 件
H19	7 路線	14 箇所	3,800 3,000	崩土撤去　2 件　路面補修　7 件 路肩保護　5 件　排水処理　－件

資料：森林課

②林道パトロール

平成 19 年度から、市内の林道の状況を把握するため、林道パトロールを開始しました。現在４名のパトロール員が在籍し、２名１組で、市内約 342km の林道を巡回しています。

５．講演、視察受入等の森づくり推進活動

市町村合併とともに森林課を設置し、条例・構想・基本計画を策定して、明確な森づくり指針を建てている豊田市は全国的にも注目を浴びており、平成 19 年度も各方面より講演・視察や執筆の依頼がありました。また、印刷物の出版やテレビ番組への出演等も積極的に行い、森づくりのＰＲに努めました。

（１）講演

県内外から講演の依頼があり、その対応に努めました。

月　　日	主催・イベント等名称	テーマ	参加者
7 月 19 日(木)	東名ライオンズクラブ	豊田市の森づくり	約 30 人
7 月 31 日(火)	三重県森林協会	豊田市の森づくり	約 70 人
8 月 25 日(土)	民間住宅会社	豊田市の森づくりと森林利用	10 人
9 月 24 日(月)	近くの山で家を作る会	豊田市の森づくり	約 50 人

10 月 6 日(土)	愛知県樹木医会総会	豊田市の森づくり	26 人
11 月 3 日(土)	名古屋国際木工機械展 ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ「木造都市は可能か？」	豊田市の森づくりと木材利用	約 50 人
12 月 8 日(土)	第20回日本の森と自然を守る全国集会	豊田市水道水源基金と豊田市の森づくり	125 人
2 月 3 日(日)	名古屋シティフォレスターズ倶楽部	豊田市の森づくり	約 20 人
3 月 14 日(金)	石川県金沢市林業振興協議会	豊田市の森づくり	11 人

資料：森林課

（２）視察等の受入れ

下記の市や団体から森づくりに関する視察の要望があり、森林課職員が対応しました。

月　　日	受入団体等の名称	視察テーマ	参加者
11 月 13 日（火）	岐阜県高山市議会	森づくり条例、構想について	7 人
1 月 25 日（金）	兵庫県北丹地域林業振興会	森づくり構想、基本計画について	15 人
3 月 27 日（木）	静岡県浜松市農林水産部	森林組合の広域合併について	3 人

資料：森林課

（３）印刷物等への掲載

全国林業普及協会から２件のインタビュー・執筆依頼があり、森林課が対応しました。

印刷物等の名称	タイトル等	発　行　者
「現代林業」2007 年 4 月号	特集：市町村が描く森林政策	全国林業改良普及協会
「この人に聞く 山を豊かにする林業創造」	地域森林自治の手法を模索	全国林業改良普及協会

資料：森林課

（４）印刷物等の出版

森林課職員が執筆して、矢作川流域の森林・林業の過去・現在・未来を題材にした「矢作川流域森林物語」を出版し、各方面に配布するとともに、森林課及び市政情報コーナーで販売しました。

印刷物等の名称	執　筆	発行部数
「矢作川流域森林物語」	豊田市産業部森林課	1,000 部　価格 1,000 円（税込）

資料：森林課

（５）市政番組「とよたＮＯＷ」特番の放映

ケーブルテレビ局の「ひまわりネットワーク」で定時放送している市政番組「とよたＮＯＷ」で森林課の行事が４回放映された他、ニュースにもしばしば登場し、森づくりの普及啓発に一役買いました。

放　映　日	番　組　タ　イ　ト　ル	放　映　概　要
5 月 21 日（月）	矢作川流域の森を知ろう とよた森林学校　森林セミナー	とよた森林学校と森林作業を行う新たな人材育成の様子を紹介
9 月 10 日（月）	豊かな森を未来へ ～巻枯し間伐体験会～	市民が手軽に森林や間伐作業にふれあうことができる機会を紹介
10 月 26 日（月）	森を守る人材を育成する ～とよた森林学校　森の健康診断～	市民に森林や林業に親しんでもらう場としての大きな役割を担っている状況を紹介

12 月 3 日（月）	森の恵み　地域材を暮らしに	市内で間伐された木材を有効に活用する事例を紹介

(注)他に「今日のニュース」でのイベント紹介多数　　資料：森林課

（６）関連行事

その他、森づくりに関連して、次の事業に講師やアドバイザーとして参画しました。

関　連　行　事　等	延べ回数	内　　容
香嵐渓飯盛山整備計画の策定指導	8 回	飯盛山整備検討会、現地調査
旭高原元気村湿原回復プロジェクトの指導	6 回	現地指導
名古屋大学農学部生物環境化学科 基盤実験実習の指導	3 回	現地指導
豊田東名ライオンズクラブ 合同アクティビティー植樹祭の指導	1 回	植樹指導、森づくり講話

資料：森林課

６．産業部森林課の組織と主な業務（平成 19 年度）

森　林　課
（課長・主幹）
（２０人）

林務担当　＝課の庶務に関すること
（５人）
施設・財産管理に関すること
伐採届・鉱業権・保安林・林地開発に関すること
森林組合関係の補助金に関すること
間伐施業に関すること
森林施業計画に関すること
森づくりの啓発に関すること
各種イベント、講座の開催に関すること

森づくり担当＝森づくり条例・構想・基本計画に関すること
（６人）
森づくり会議と団地化に関すること
森づくり委員会に関すること
市有林に関すること
とよた森林学校に関すること
森林ボランティアに関すること
木材の流通・利活用に関すること
森づくり基金に関すること

林道担当　＝林道開設事業に関すること
（７人）
林道開設・改良事業に関すること
林道管理規則に関すること
林道の維持管理・修繕に関すること
林道パトロールに関すること
森林組合林道補助金に関すること
林道の災害復旧に関すること

平成 19 年度 豊田市森づくり白書（Vol. １）

平成 20 年 11 月

発行者　豊田市

編　集　豊田市産業部森林課
〒444－2424　愛知県豊田市足助町
宮ノ後 19－5（豊田市足助支所地内）
℡：0565-62-0602　FAX:62-0612
E-mail：shinrin@city.toyota.aichi.jp

この冊子は、日本の森林を育てるために国産材（間伐材）を
積極的に使用しています。（国産材（間伐材）10%）